



## 色彩館に咲く

### トキワマンサク

*Loropetalum chinense*

マンサク科トキワマンサク属  
原産国：本州中部以南から九州、台湾、  
中国南部、インド東北部に分布



### サクラの後が出番です。

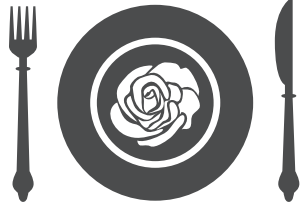
トキワマンサクの日本での自生の分布は限定的で、静岡県湖西市・三重県伊勢神宮・熊本県荒尾市のみで知られます。常緑の小高木で、多くの枝を出して低木状となり、小枝と花序には白っぽい粉のようなものが見えます。これは毛の1種で、ルーペで覗くと星の形に見えるため、星状毛と呼ばれます。樹高は2~4mになり、ちょうどサクラの開花と入れ替わるように4~5月頃に開花します。英名で「フリンジ・フラワー (Fringe Flower)」と呼ばれるように、房飾りのようなユニークな花形が特徴的で、花保ちもよく、華やかに春を彩ってくれます。

属名の「*Loropetalum* (ロロペタラム)」は、その形状から、ギリシャ語の「loron (ロロン=革紐)」と「petalon (ペタロン=花弁)」が語源で「革紐のような花弁」にちなみ、種名の「*chinense* (キネンセ)」は、「中国の」を意味します。また、和名のトキワマンサクは、「常磐=常緑」と花がマンサクの花に似ていること

から名付けられました。

手のかからない植物で、肥沃な腐植質の多い、水はけのよい土壌の日向でよく育ち、横に伸びる性質の枝が垣根や盆栽仕立てやすいことから、本州ではよく栽培されます。耐寒度はZ8と、北海道では屋外で越冬はできませんが、鉢植えで初夏から秋まで屋外の日当たりの良い場所で管理し、冬に屋内に取り込めば栽培が可能です。基本種は薄いクリーム色の花色で、ほのかな香りがあり、葉は褪せた緑色をしています。品種や栽培品種もいくつかあり、なかでも目立つ青緑色の葉に濃いピンク色の花が魅力のベニバナトキワマンサクは、世界中の園芸家に大変人気があります。色彩館でもトキワマンサクとベニバナトキワマンサクを鑑賞することができます。大温室でまさに今見頃を迎えていますよ。まだまだ外は雪景色の岩見沢ですが、色彩館の中はもうすっかり春。

是非季節を先取りしに来ませんか？



## 4月24日(金)から通常営業!

バラ園のレストランは冬期間は土日祝日のみ営業しています。  
今期の**通常営業開始は4月24日(金)**からで、  
定休日は水曜日となっております。ご来店お待ちしております。  
営業時間: 11:30 ~ 15:00 (ラストオーダー 14:30)

お問合せは  
札幌本店へ



050-5798-2196

トラットリア

ルッチ

TRATTORIA Lucci



### 今月の便り

### バラ園

植栽用のバラの鉢上げも完了し、醗酵油かすの施肥も完了。あとは雪割りをしながら雪解けを待つばかりとなりました。早く土を乾かして雪囲いを外し、怒濤の剪定作業と続いています。

### 色彩館

大温室ではヒメサザンカやトキワマンサクが満開となり、ハナミズキとモッコウバラが咲いています。開花が終わったサザンカやヤブツバキ、キンモクセイなどは剪定が完了し、とてもすっきりしています。ギンマサキやキンマサキの新芽の芽吹きが眩しく、春真っ盛りの大温室に遊びにきてください。

### 花と緑の供給センター

一年草の生産もいよいよ大詰め、4月はマリーゴールドやサルビアの鉢上げ作業に追われていきます。外気温が暖かくなってきたので、パンジー・ビオラは一足早くハウスの外に引っ越しです。

### じわじわ。

道路や畑の雪が融けて、風に土のにおいが混じるようになってきました。

公園では周囲の木々の根元がぼっかりと開いてきています。この現象には名前があり、「根開き」と呼ばれます。この現象の要因は、はっきりしていないのですが、一説には幹からの放熱だとか、幹に当たった日の反射光によるものだそうです。

雪融けといえば、種まき爺さんをご存知でしょうか。山の雪が融けることにより、お爺さんが腰をかがめて種をまいているように見える雪形の事です。私は小さい頃に、山形県にある鳥海山の種まき爺さんを見た事があります。これが見えると田植えや畑の種まきの時期が来たという合図になります。

様々な雪融けの形で、昔からヒトは春を待っていたのですね。 Miz

よしなしごと

### 雪融けの話

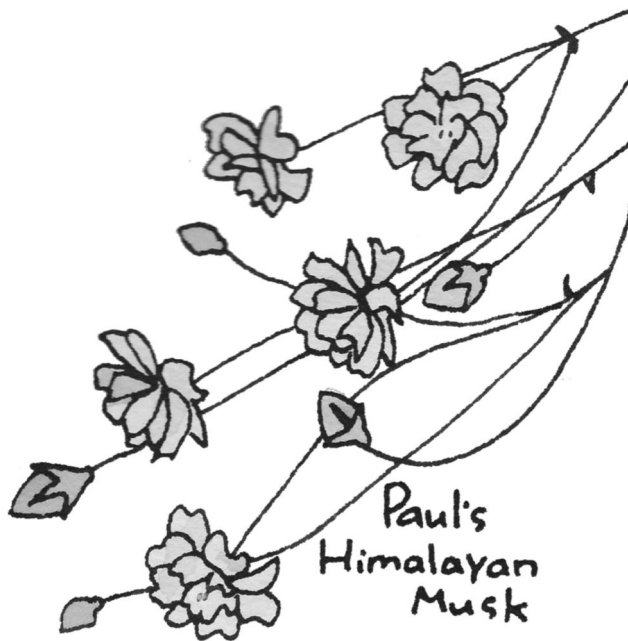


# ひとつき ひとバラ



文：新堂大樹  
(いわみざわ公園バラ園)

イラスト：藤川志朗  
(イラストレーター)



## 第十三回

ランブラーローズ

### ポールズ ヒマラヤン ムスク ランブラー

Paul's Himalayan Musk Rambler

作出国：イギリス

作出者：George Paul

作出年：1916年

ハーディネスゾーン：Z4

一季咲き性

交配：Rosa brunonii × Rosa moschata

透き通るような淡いピンク色の花で、花付きが非常に良く、開花期に一気に花が開花する様には、圧倒的な美しさがあります。また、花形の雰囲気がサクラと似ており、どこことなく和風の趣きもあります。爽やかな芳香がありますが、開花直後に軽く香る程度で持続はしません。

この品種は、ランブラーローズ(略号：R)の系統の中でも、最も大型化する部類に属していて、樹勢が強く、枝は暴れる傾向があります。また、トゲが多く鋭いため、誘引時には注意が必要ですが、満開になった時の花で覆われる光景を思い浮かべると、不思議と辛くはなくなるものです。また、この品種はヒマラヤから中国西部に分布する原種、ロサ・ブルノイイ (*R. brunonii*) と、インドまたは中国南西部に起源するロサ・モスカタ (*R. moschata*) の交配により育種されたと言われ、この2つの原種は現在では同種という見解もありますが、特徴としてはムスクの香りがあり「ムスクローズ (Musk Rose)」とも呼ばれ、品種名の由来は「ポールが作った、

ヒマラヤ原産のムスクローズを交配したつるバラ」といったところでしょうか。きっとムスクの香りの強い大型のつるバラを作りたかったんでしょうね。結果、香りは強くはなかったわけですが、東京を中心にバラを主とした庭づくりを手掛けていた村田春夫氏は、自著の中で「20世紀を代表するつるバラ」の第7位に、この品種を選出しています。また、バラ育種家のデヴィット・C・H・オースチン氏も自著で、たいへん秀逸な美しいランブラーだ、と言うほどですから、そういったことから大変評価の高いバラだということが伺えます。耐寒性、耐病性に優れ、1株で株一面を覆ってしまうほど旺盛に成長するので、大壁面やフェンス、大型のパέργラやアーチなどで大活躍します。

当園の、色彩館大温室でもポールズ・ヒマラヤン・ムスクも大変存在感があり、春の色彩館を彩ってくれます。この他にも約20品種のつるバラがあり、4月中旬頃から5月中旬頃まで見頃となりますので是非見に来てくださいね。



春ですね。冬の間は「早く春が来ないかな～」なんて考えていても、いざ春が来ると毎年目が回るほどあっという間に毎日が過ぎていきます。さて、バラの冬囲いを外したら、表土の中耕と共に醗酵油かすを施肥して剪定です。剪定は古い枝の更新、不必要な枝を切ることで養分の分散を防ぐこと、風通しを良くして病虫害の発生を防ぐことが目的。系統別に切り方は変わりますが、基本は次の3つのポイントを踏まえて行いましょう。①枯枝の除去 ②残す枝の見極め ③枝の高さの調整  
バラ園の剪定は4月下旬頃から作業を予定していますので、剪定で困ったらお散歩がてら覗きにきてください。

## 大温室のつるバラ 満開は4月下旬頃から！

1月の中旬から葉むしりと剪定をした大温室のつるバラ約20品種が4月下旬から5月の中旬頃まで見頃を迎えます。高さ4mほどまでになったつるバラは道内最大級。そしてこの時期にバラの開花を見ることができるのは、道内では色彩館の大温室だけ！お見逃しなく！！



### 4月の市民園芸講座のご案内



- 4月12日(日) 13:00~15:00 **ハンギングづくりの基本**  
有料 1500円 定員：40名 講師：梅木 あゆみさん コテージガーデン代表
- 4月18日(土) 10:00~12:00 **ばらゼミ ②バラの剪定の基本**  
無料 定員：40名 講師：工藤 敏博さん ローズグローワーズ
- 4月26日(日) 13:00~15:00 **家庭菜園を楽しもう**  
無料 定員：40名 講師：大道 雅之さん 拓殖大学北海道短期大学
- 5月16日(土) 10:00~12:00 **ばらゼミ ③バラの植床と病害虫**  
無料 定員：40名 講師：工藤 敏博さん ローズグローワーズ